

# いきいき弥小っ子

7月に行った保護者アンケートでは、貴重なご意見をありがとうございました。みなさんからいただいたご意見は、2学期からの教育活動に生かすようにしております。今回はその中から、いくつかのご意見を紹介いたします。

分類	ご意見の要旨	学校から
歯みがき	保育園では食後(昼)の歯みがきをしていたのに、小学校へ行ったらやらなくなったことに、疑問を感じる。	2学期から、給食後の歯みがきを全校で行っています。11月には期間を決めて、給食後の歯みがきを強調して取り組みました。
歯みがき	昼食後の歯みがきが、保育園では毎日の実施だったが、入学したらなくなってしまい残念。学校全体で取り組めないか。	
健康	歯科検診の結果が来るまで、かなり時間がかかったので、できるだけ早く出ししてほしい。	秋の歯科検診からは実施後、早急にお伝えするようにしていきます。
あいさつ	元気よくあいさつできる子どもたちがもっと増えるように。	子どもたちのあいさつについてよくご質問いただき、ありがとうございます。学校でも、あいさつについては、人とかかわり合いの中でもとても大切なことであると考えています。しかし、ご指摘のようにあいさつしても返さなかったり、声が小さくて伝わりにくかったりなどの個人差があることも確かです。この個人差をできるだけ少なくしたり、あいさつを活性化したりするために、下記のような取組を行っています。
あいさつ	学校の帰りの声掛けも返事がなく、あいさつが習慣化しているとは思えない。	○小・中学校が連携してあいさつの取組を行っていること。(学期に1回同時期でのあいさつ運動など) ○今年度は、地区代表委員の方にも協力をしていただき、朝のあいさつ運動を行ったこと。 ○学校でも、全校体制でのあいさつ強化旬間や児童会主催でのあいさつ運動を展開しており、自分からあいさつを行うことはもちろん、「あいさつをされたら返します」ということにも重点をおいた取組を行っていること。
あいさつ	うちのバス停の子どもたちは、自分から進んであいさつするどころか、こっちがあいさつしてもあまり返してくれない。	これらの取組を行っていたから、もう大丈夫ということとは決してありません。あいさつの意味とらえさせ、子どもたちが生活する多くの場面で、このことに取り組みんでいくことが習慣化につながっていくものと考えています。今後ともご家庭でのご協力をお願いいたします。
あいさつ	数年前の方が、あいさつはずごくよかったです。高学年の方があまり、低学年の方がする感じ。高学年がもう少しみんなの手本となってほしい。	
根っこ	いじめ早期発見・防止や不登校対策としての個別の取組と心の健康チェックは、どのくらいのスパンで実施しているのか。	「弥彦小学校のいじめ・不登校防止の取組」については、9月30日発行の根っこだより8号で詳しくお伝えさせていただきましたが、毎月の心の健康チェックや年3回の学校生活アンケートをもとに、随時取りを行っています。アンケートで学級生活に満足していない子への支援を全職員での共通理解のもとで行っています。また、学級生活に満足しているように見えるお子さんでも、個別に随時取りすると何かしらの悩みや心配事を打ち明けてくるお子さんも少なくありません。結果や数値を重視することなく、子ども一人一人の内面をしっかりと見つけ、問題の早期発見、解決に努めています。今後とも、さらに努力していきたいと思えます。
根っこ	子どもの心の中での小さな悩みを早く把握する方法として、具体的な策を聞かせてほしい。	
根っこ	ご指摘のような傾向はありがちなことだと思います。できるだけこのようなことを防ぐために、毎月生活のめあてと関連した「弥小8つの約束」(礼儀や話の聞き方、社会的なマナーなどが記されているもの)をもとに、今月のめあての時だけでなく、日常的な指導をさらに行っていくしたいと思います。	
根っこ	毎月の生活のめあてに向けてがんばっているようだが、次のめあてになるとやらなくなる。	
学び	英語の授業について行けない子どもは、どうしたらよいか。	小学校の外国語活動では、外国の言葉や文化を通して、「もっと外国のことを知ってみたい」「もっといろいろな言葉に触れてみたい」と、子どもたちに興味をもってもらうことをねらいとしています。正しい単語や文法を正確に身に付けていくことを、目的としているわけではなく、言葉が多少まちがっても、楽しくコミュニケーションしていくこととする気持ちを大切に、外国語活動を行っていますので、ご理解ください。
学び	授業の進みが早い。あまり理解できないうちに次へってしまうので、子どもがトライしている。基本の時間をもう少し長くしてほしい。	
学び	クラスの人数が多いせいか、去年以上に勉強が厳しくなってきた。ゆっくペースで基本を教えてもらえらるにしたい。	各学年の指導内容には指導する時間の目安があり、それに子どもたちの実態を加味して指導時間を決めています。しかし、予定していた時間内で学習内容の理解がすべてできないときは、次の時間に前時の復習をしたり、スキルタイムで復習したりしています。また算数では、分からない子が出ないように、3年生以上の学年では複数の教員を配置して、きめ細かな指導に当たっています。このように、学校では一人一人のお子さんの学習理解が深まるように配慮しながら学習を進めています。しかし、個人差もありますので、お子さんの学習のことで不安がある場合は、担任までお知らせいただき、さらに個別指導を考えたり、学校と家庭とが連携したりして指導にあたってほしいと考えています。
学び	分からないことを分らないまま、次の課題に進んでいるように思う。子どもたちがどこでつまづいているか、どういうふうに分らないのかをもう少し見てもらいたい。	また、学校では教育活動全般にわたり、人とかかわり合う活動を重視しています。授業の中でも、自分の考えを友達に伝えたり、友達の考えを聞いて自分の考えを深めたりする活動を多く取り入れて授業を行っています。授業で深めた子どもの学びを日常の家庭学習で復習していくことにより、子どもたちの学力が高まっていくと考えています。
学び	人の話を聞いて、思いを自分で表現する力。文章を読んで内容を理解する力が弱い。具体的にどのようなことをすれば、こういった力が付いてくるのか。	
安全	低学年だけの日の徒歩の下校で、事故がないように指導を。	今後とも、交通事故防止など安全な登下校について、子どもたちへの随時指導に努めていきたいと思えます。また、セーフティスタッフの皆様へ「安全だより」をお届けし、通学路や下校時刻などをお知らせしています。このことをお含みいただき、子どもたちの安全な登下校について見守っていただいています。
安全	登下校(特に歩きの子)への学校や地域の見守り体制をもう少し見直してほしい。	学校でも、天候の悪いときだけでなく、徒歩下校の子どもたちの様子を監視するなど、必要に応じて行っていきたいと思えます。
安全	学校からの携帯メール内容が、わかりにくいことがある。行をかえて見やすくするとわかりやすい。	今後は短く、分かりやすい内容で配信するようにしていきます。
安全	災害時等のお迎えの基準を詳細に決めてほしい。例えば、迎えに来るまで学校に留めおく。	村教育委員会や中学校と現在、相談・協働中です。詳細が決まり次第お知らせします。
特別支援	特別支援教育の更なる充実を。	このような取組のご意見を頂戴し、とてもうれしく思っています。学校でもさらに一生懸命取り組み、子どもたち一人一人に、より即した支援を行っていきたく思っています。校内でも研修を充実させたり、保護者の皆様と連携したりして、特別支援教育を充実していきたいと思っています。
外部連携	キッズに行くと、一部の人が「バカ」「デブ」(変な顔)など、ちくちく言葉で大変迷惑。	現在も小学校とキッズと連携や情報交換を行いつつ、子どもたちの教育活動を進めています。2学期からは、キッズの指導員から小学校での授業に取り組みの様子を見てもらうなど、新しい取組も始めたところです。これからも、キッズとの連携を深めていきます。